

令和8年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特7		学校名	県立水戸飯富特別支援学校								学校長名	横山 ふさみ					
副校長名	佐藤 政雄				教頭名	飯村 由希子				事務(室)長名	小河原 道子							
教職員数	教諭	93	養護教諭	2	常勤講師	12	非常勤講師	4	実習助手	2	寄宿舎指導員	事務職員	3	技術職員等	14	計	134	
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		小計		合計	合計学級数	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	幼稚部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	小学部	11	4	9	5	10	4	14	6	15	6	13	9	72	34	106	24	
	中学部	12	1	24	3	23	6	-	-	-	-	-	-	59	10	69	14	
	高等部	18	5	15	10	15	10	-	-	-	-	-	-	48	25	73	12	
	専攻科	/	/	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	
														179	69	248	50	

2 目指す学校像

- ◆朗らかで楽しい学校
- ◆穏やかで安心できる学校
- ◆和やかで信頼される学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス推進計画に基づくコンプライアンス確保の取組。教職員のコンプライアンスに関するアンケート年4回実施。実践研修でのリフレクション結果の分析による意識の変容の可視化、及び醸成を図った。 ・生徒支援係等の人員を配置し、安全確認のための人員配置を明確にした。 ・食物アレルギーのある児童生徒への対応マニュアルの見直しをし、除去食から給食提供か弁当持参かの二択とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を踏まえた人権感覚を教職員が身に付け、組織的に人権教育を推進する。 ・校内の危険個所を的確に掌握し、事故の未然防止に努める。 ・食物アレルギー対応マニュアル変更後の検証、課題分析を行い安全に努める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日の設定や長期休業中の時差出勤の奨励、年度初めや面談期間中の短縮日課（1時間繰り上げ下校）を実施し、勤務時間外在校時間 45 時間以上及び年間 360 時間以上 0 人を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時差出勤、短縮日課等を導入したことによる成果と課題を検証し、働き方改革を自ら推進する意識を高める必要がある。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善研修にあたり、校内組織を見直し、校内研究を中心的に担う授業実践研究部を立ち上げ、授業実践研究や学習指導・支援に必要な個別の指導計画等の作成・運用、教科・領域会の運営、ICT 教育等を一括して担うことにした。 ・地域性を生かし、茨城大学教育学部特別支援教育コース教授陣に計画的・継続的に指導・助言を得られるよう、外部専門家と連携した授業実践研修ができるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内組織改善に伴う各部署の内容や機能を検証し、校内研究と絡め、授業改善に組織的に取り組む。 ・地域のリソースを発見しながら地域との協働を見直し、時代に応じた地域学校協働活動を推進していく。

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 安心して学習や生活できる「安心・安全」な教育環境づくりに努める。 2 児童生徒一人一人の学びや生活のしやすさを高め、生活に結び付いた確かな学力の定着を図る。 3 地域資源を効果的に活用し、地域に根ざしたキャリア教育を推進する。 4 幼児教育施設・小・中・高等学校等との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 安心・安全で笑顔溢れる教育環境づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①一人一人の「学び」と「心の居場所」を保障する教育環境づくりの推進（事故等の未然防止、危機管理体制の強化、自己有用感の向上） ②時代に応じた人権感覚の醸成と児童生徒理解・家庭支援の充実、食育・健康教育の推進
(2) 一人一人の学びに寄り添う授業づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①的確な障害の状態等の把握、教科等と関連を図った自立活動の指導の充実 ②育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等の適切な指導目標の設定と学習評価（主体的な学びを促す授業実践の蓄積等）
(3) 一人一人の自立と社会参加に向けた地域に根差したキャリア教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①系統的なキャリア教育の推進と教育課程編成の工夫・改善（小中高等部の発達段階に応じたキャリア教育の系統性、コミュニティスクール） ②「働く」意欲を高める授業実践の蓄積（「キャリアパスポート」の効果的な活用）
(4) 地域の実態に応じたセンター的機能の強化と地域との連携の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①地域の実態や課題を把握した上での巡回相談の充実 ②特別支援教育に関する情報発信と課題の共有（県立特別支援学校地域連携体制構築事業・特別支援教育推進体制充実事業）
(5) 教職員の「働きがい」を保障するための働き方改革と教職員自ら時代に応じた人権感覚をもつ、笑顔と活力に満ちた職場環境の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①コンプライアンス推進計画に基づく風通しのよい職場づくり、人権感覚の向上とコンプライアンス意識の醸成（学年、部を超えたコンプライアンス研修の実施、アンケート結果の分析等） ②会議時間短縮や研修時間の確保による時間外勤務の削減と児童生徒の指導・支援にかかる時間の創出